

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32620

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24700779

研究課題名(和文) “子育てしながらでも働ける！”という意欲を喚起する多重役割マップ看護師版の開発

研究課題名(英文) Development of Multiple Roles Map Program for Nurses; For the Promotion of Work and Childcare Motivations

研究代表者

山田 泰行 (Yasuyuki, Yamada)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・助教

研究者番号：80531293

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：多重役割マップを用いた一連の研究によって、看護師の基本的な多重役割構造を明らかにした：看護師、マネジメント、友人関係、パートナー(妻・夫、恋人)、母親(娘)、プライベート(無役割)。次に、これらの役割をこなし続けることで獲得する恩恵(PSP)、葛藤(NSP)、ストレス対処(補償)のエピソードを収集し、共通特徴を示した。さらに、多重役割マップ看護師版と質問票調査のデータ分析から、記述されたPSPのエピソード数から精神的健康度のハイリスクが予測できることを確かめた(NSPと補償のエピソード数は関連なし)。これらの研究成果をコンテンツに含む多重役割マップ実施マニュアル(看護師版)の作成に着手できた。

研究成果の概要(英文)：This study used the Multiple Roles Map (MRM) program and clarified that Japanese nurses engaged in the multiple roles as nurse, manager, friend, partner, mother (or daughter) and private time (role-free time). Additionally, we showed common features of the collected episodes about the role enrichment (positive spillover: PSP), role conflict (negative spillover: NSP) and stress coping effects (compensation: COM) caused in interfaces between these multiple roles. Furthermore, through the statistical analysis, we confirmed that the high risk mental health condition could be estimated from a total number of PSP episodes described in the MRM form. On the other hand, the frequencies of NSP and COM didn't relate with the mental health outcome. Finally, we succeeded to make a beginning of the development of the MRM guideline for nurses including above findings as the contents.

研究分野：人間工学，情報科学，生活科学，応用健康科学

キーワード：多重役割 ワークライフバランス スピルオーバー 看護師 子育て支援

1. 研究開始当初の背景

2007年に官民合意で「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」が策定され、全国各地の自治体と企業で働く女性を支援する取り組みが精力的に進められている。その社会的背景には、仕事と家庭の両立が難しく結婚や出産を契機に離職する女性、子育てを理由に復職を断念する女性の増加がある。この事態は慢性的な看護師不足が社会問題としてとりあげられる看護職においてとりわけ深刻である。従って、看護師のワーク・ライフ・バランス実現は、QOLの向上だけでなく、離職対策、復職支援、少子化対策としても有意義かつ急務である。

このような中、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた全国各地の取り組みを概観すると(内閣府,2010)その主眼はフレックスタイム制の導入や託児所の設置など衛生要因への介入に置かれていることがわかる。とりわけ秀逸な取り組みはグッド・プラクティスとして全国に発信するなど、アクティブな活動が展開されている。その一方で、「結婚しても働ける!」「働きながらでも子育てできる!」という効力感を喚起する動機要因への介入は立ち遅れた状況にあるといえる。自己実現に繋がるモチベーションは衛生要因よりも動機要因から喚起するという定説からも(衛生理論, Herzberg, 1968)動機要因にアプローチするための手法を開発する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は看護師のワーク・ライフ・バランスに介入するためのツールとして「多重役割マップ」に着目し、介入効果を検証する(目的1)。さらに、看護師が記述した多重役割マップを分析し、精力的に多重役割をこなす者の特徴を明らかにする(目的2)。最後に、本研究の知見と現場の意見を統合した「多重役割マップ実施マニュアル(看護師版)」を作成する(目的3)。

3. 研究の方法

(1) 予備調査

看護師を対象に多重役割マップを実施する際の手続きや留意点を整理し、実施手順の標準化を行う。

(2) 研究1

看護師に多重役割マップ実践し、評価を得ることで介入ツールとしての有用性を検証する(目的1の検証)。女性看護師90名に多重役割マップを行い、実施後に内省報告の記述を求める。収集したナラティブデータから介入効果に相当する記述を抽出し、構造化することで多重役割マップの介入効果を検討する。

(3) 研究2

多重役割マップと質問紙調査を実施し、精

力的に多重役割をこなす者の特徴を明らかにする(目的2)。多重役割マップの記述には時間を要するため、質問票で簡易的に評価できる質問項目(多重役割マップ質問票)を作成して調査に使用する。質問票の構成は次の通りである。

【質問紙の構成】

多重役割マップ質問票:研究1のデータをもとに作成する。妥当性と信頼性を検証した上で独立変数として使用する。

GHQ-12:精神的健康度の評価指標。従属変数として使用する。

WFCS:ワーク・ファミリー・コンフリクトの評価指標。多重役割マップ質問票の基準関連妥当性を検証する。

フェイスシート:交絡として補正する。

4. 研究成果

(1) 多重役割マップ(看護師版)実施手順の標準化

予備調査において看護師が記載した多重役割マップの共通特徴から、本研究が記述を求める6つの多重役割を定義した。

【看護師の多重役割】

看護師役割

マネジメント役割

友人関係役割

パートナー(妻・恋人)役割

母親(娘)役割

プライベート(無役割)役割

多重役割マップの実施状況の観察からは、実施に伴う3つの留意点を示した。

【多重役割マップ実施の留意点】

多重役割マップは看護師に適用可能であるが、実施にあたっては60分から90分の時間を要すること

多重役割マップの記入にあたっては、難易度やエピソードの思い出しやすさに関する個人差が生じること

他者の多重役割マップと比較することによって、自己分析や自己啓発を促す可能性があること

(2) 多重役割マップ(看護師版)調査における質の高いデータ収集方法の検討

質の高いデータを収集するため、予備調査では調査方法によるデータの質の違いについても検証した。比較した調査方法は次の通りである。

【データの質を比較した調査方法】

方法1:集団アプローチによる調査の実施と郵送法による回収

方法2:個別アプローチによる調査の実施と留置法による回収

その結果、集団アプローチと郵送法による調査ではデータの回収率が 35.7%であったのに対し、個別アプローチと留置法による調査では回収率が 100%であった。多重役割マップに記載される文字量にも調査方法の際による偏りがあることを確認した。このことから、集団アプローチの方が調査自体は短期間で進めることができるものの、本研究では質の高いデータ収集が期待できる個別アプローチを採用することとした。

(3) 多重役割マップ(看護師版)による介入効果

多重役割マップ実施後の内省報告はいずれもポジティブなものであり、一定の介入効果が期待できることを確かめた。主な報告は次の通りである：「いつもとは違う視点で気持ちを整理することができた」、「とても楽しく取り組めた」、「また仕事を頑張ろうという気持ちになった」、「他の人の多重役割マップと比べてみたい」。

(4) 精力的に多重役割をこなす看護師の PSP の特徴

多重役割マップには、多重役割をこなし続けることで、どのような恩恵を得ることができたか(ポジティブ・スピルオーバー：PSP)、どのような葛藤に直面したか(ネガティブ・スピルオーバー：NSP)、ネガティブ・イベントに直面した際にどのように対処したか(補償)についてのエピソードが記述される。これらを分類することで、遅しく多重役割をこなす看護師の特徴を示すことができる。そこでまずは、研究1で収集した多重役割マップの記載情報のうち、PSPの頻度とエピソードを分析した(エピソードの一例：看護師の知識が育児に役立った)。その結果、PSPの多くは看護師役割とパートナー役割から生じていることを確かめた。看護師であることが周囲からの尊敬や信頼に繋がっているという記述が高頻度で観察されることも確かめた。

(5) 精力的に多重役割をこなす看護師の NSP の特徴

研究1で収集した多重役割マップの記載情報のうち、NSPの頻度とエピソードを分析した(エピソードの一例：仕事の疲労により家事がおろそかになった)。NSPのエピソードは組織内キャリア発達理論の発達段階に基づいて構造化した。これにより、看護師のキャリア発達に求められる3つのポイントを導いた。

【看護師のキャリア発達のポイント】

いかにして最初の人管理役割に適用するか(中期キャリア)

いかにして看護師を続けながら親孝行するか(初期～後期キャリア)

いかにして看護師役割に折り合いをつけて人管理役割(師長など)に取り組むか(後期キャリア)

(6) 精力的に多重役割をこなす看護師の補償の特徴

研究1で収集した多重役割マップの記載情報のうち、補償の頻度とエピソードを分析した(エピソードの一例：仕事で疲れてしまったとき、子どもの寝顔で癒された)。その結果、看護師役割と人管理役割の中で疲労や不満、プレッシャー、ストレスが生じているものの、それらは友人関係役割、パートナー役割、母親(娘)役割、プライベート(無役割)で生じるポジティブなイベントによって相殺されていることを確かめた。

(7) 多重役割マップ(看護師版)によるメンタルヘルス評価

多重役割マップと質問票調査のデータ分析を行った。PSP、NSP、補償、分離の頻度を独立変数、GHQ-12得点を従属変数とするロジスティック回帰分析により、多重役割マップに記述される情報のうちPSPのエピソード数が精神的健康度に関連していることを確かめた。PSPのエピソードが5つ以上記述されているか否かによって、精神的健康度のハイリスクを見積もることができる可能性が示唆された。(NSPと補償の頻度は関連なし)。

(8) 多重役割マップ質問票(看護師版)の開発

本研究が標準化した多重役割マップ(看護師版)は記述研究や介入研究に適しているが、60分程度の記入時間を要するため分析研究で使用することは難しい。そこで、多重役割マップの記載情報のうち、PSP、NSP、補償、分離の頻度のみを簡便に得点化することができる多重役割マップ質問票(看護師版)を開発した。多重役割マップ質問票(看護師版)の項目は研究1で収集した多重役割マップのナラティブデータをもとに作成されており、20分程度で回答可能である。

(9) 多重役割マップ質問票(看護師版)によるメンタルヘルス評価

多重役割マップ質問票(看護師版)が測定するPSP、NSP、補償、分離の得点から精神的健康度をどの程度予測できるかを検証するための調査を行った。PSP、NSP、補償、分離の得点を独立変数、GHQ-12得点を従属変数とするロジスティック回帰分析を通して、看護師の精神的健康度の高さにはPSPと補償の得点の高さが関連していることを確かめた。精神的健康度の低さには、PSPと補償の得点の低さに加えてNSP得点の高さが関連していた。

(10) 多重役割マップ(看護師版)実施マニュアルの作成

協力医療機関への成果報告を行い、実践的

なマニュアル作成のためのコメントを収集した。収集した主なコメントは次の通りである：「文字を書くという面倒なやり方ではなく、写真一枚ですむようなアプローチの方が効果的ではないか」、「スピルオーバーという言葉に疑問を感じる。単なるオーバーラップとも考えられる」、「サイエンスツールとして使用する場合は、ネガティブ・スピルオーバーや補償、分離も評価すべきだが、プラクティスツールとして使用する際には、ポジティブ・スピルオーバーのみを扱った方がよいのではないか」。これらのコメントはマニュアルを作成する上で十分に配慮された。

現在は(1)～(9)の研究成果をコンテンツに含む多重役割マップ実施マニュアル(看護師版)の作成に取り組んでいる段階である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

1. 山田泰行: "日本と韓国を繋ぐ参加型研修 PAOT の実践" 労働の科学 68. 37-41 (2013), 査読無

[学会発表](計8件)

1. 山田泰行, 榎原毅, 水野基樹: 看護師の多重役割と精神的健康度の関連 多重役割マップ(質問票版)を用いた横断調査の展開 "第50回人類労働学会全国大会.(2015.6.20-21). 人類労働学会会報, 大阪市立大学(大阪府)(Accepted).
2. Yamada Y, Ebara T, Shimizu T, Mizuno M. Relationships between Work-Family Spillover, Compensation and Mental Health Condition among Japanese Nurses: Focusing on Multiple Roles Map Descriptions. Proceedings 19th Triennial Congress of the IEA, pp.9-14, 2015.8.9-14 (Melbourne, Australia), (Accepted).
3. Yamada Y, Hochi Y, Mizuno M. Key points of procedures of Multiple Role Map program toward Japanese nurses: Differentiation between individual and group approaches. Proceedings and Abstract of the 10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics, pp.56, 2014.8.25-29 (Tokyo, Japan).
4. Yamada Y, Kinooka Y, Ebara T, Mizuno M, Hirosawa M, Kamijima M. Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives:

Using the Multiple Role Map program. Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, pp.6052-6, 2014.7.19-23 (Krakow, Poland).

5. 山田泰行, 榎原毅, 紀ノ岡ゆかり, 水野基樹, 広沢正孝, 上島通浩: "助産師が記述した多重役割マップから見えてくるキャリア・ストレスの仮説" 産業保健人間工学第18回大会.(2013.9.21-22). 産業保健人間工学研究, 第15巻, 特別号, pp.128-31., 広島市立大学(広島県)
6. 山田泰行, 紀ノ岡ゆかり, 榎原毅, 水野基樹, 岡田綾, 広沢正孝, 上島通浩: "Narrative evidence of the work-family positive spillover in Japanese midwives: A descriptive study using the Multiple Roles Map program" 第48回人類労働学会全国大会.(2013.6.15-16). 人類労働学会会報, 第9号, p.98., 和歌山大学(和歌山県)
7. 山田泰行: "子育て看護師育成を目指す多重役割マップ(MRM)の実践" 第5回日韓参加型産業保健トレーニングワークショップ.(2013.1.25-26). 高崎経済大学(群馬県)
8. 山田泰行, 水野基樹, 榎原毅, 岡田綾, 上島通浩, 広沢正孝: "看護師に多重役割マップ(MRM)を用いた介入研究を実施する際の留意点" 第41回人類労働学会東日本地方会.(2012.11.11). 人類労働学会会報, 第97号, p.8., 電気通信大学(東京都)

[図書](計2件)

1. Yamada Y, Hochi Y, Mizuno M. 「Key points of procedures of Multiple Role Map program toward Japanese nurses: Differentiation between individual and group approaches」, 『New Ergonomics Perspective』, Ed. Sakae Yamamoto, 2015, 388(pp.177-80). CRC Press Taylor & Francis Group, London.
2. Yamada Y, Kinooka Y, Ebara T, Mizuno M, Hirosawa M, Kamijima M. 「Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives: Using the Multiple Role Map program」, 『Advances in Social and Organizational Factors』, Ed. Peter Vink, 2014, 583(pp.420-4). CRC Press Taylor & Francis Group, London.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

山田 泰行 (YAMADA YASUYUKI)

順天堂大学スポーツ健康科学部・助教

研究者番号：80531293